



## 後期に向けて

この季節、本校ではさまざまな行事がめじろ押しです。前後期の分期式から始まり合唱コンクールや個別支援級の合同宿泊学習、後期中間試験や生徒会選挙に向けた取り組み、児童生徒交流日や子育てサロン、さらには3年生は進路面談、2年生は出前職業体験があります。泉が丘中ブロックの学校運営協議会も実施されました。前半を終えて後半への折り返しの時期となり、今までの取り組みを踏まえて年度末へ向けた後半が始まりました。そして季節も秋から冬へと移り変わってきました。衣替えをしながら、紅葉を楽しみつつ秋をゆっくり終えて冬へとはならず、あっという間に冬支度となります。気温の変化も激しく体調を崩しやすい季節ですが、日々しっかりと過ごしていけたらと考えています。

さて、合唱コンクールへのご協力ありがとうございました。毎年、大変素晴らしい行事で圧倒されています。今年度は、最初に全体合唱を取り入れました。これは、生徒からの要望で取り入れたものです。今後も学校運営全体に対して、さまざまな形で生徒の意見も取り入れていきます。さらにより良い学校に向けて、教職員・生徒・保護者・地域などが一体となって同じ方向を向いて取り組んでいきたいと考えています。

### 個別支援級



## 泉区個別支援学級合同宿泊学習

11月4日（火）～5日（水）、泉区の中学校の生徒が集まり、愛川ふれあいの村で合同宿泊学習をおこないました。もともと雨予報だった天気は回復に向かい、朝・晩の肌寒さがあったものの、晴れ間も見える2日間になりました。

1日目は、活動班に分かれてのレクや、学校ごとに広場での昼食、夜の集いではキャンドルファイヤーや踊りを楽しみました。2日目は、広大な敷地を使ってのディスクゴルフ、最後の退村式では感謝の気持ちや班長の感想で、充実した2日間を締めくくりました。この宿泊学習の3つ目標である、「①自分の身のまわりのことは自分でできるようになる」「②集団生活のマナーを身につける」「③自然に親しむ」を一人ひとりが意識しながら、1泊2日の活動を終えることができました。

この成果を、1月に予定されている合同学芸会や、これからの活動に生かしていきたいです。

# 今月の記事

## 合唱コンクールが行われました

10月17日(金)本校体育館にて、たくさんの地域の方や保護者の方にご来校いただき、どのクラスも素晴らしい合唱を発表することができました。

9月からパート練習が始まり、生徒たちは一生懸命練習を重ねて歌を作り上げてきました。声が出なくて音程の取れないところから見てきた教員が、当日生徒の合唱を審査するというのは、甲乙が付けがたく実はとても苦しいことなのです。生徒にも教員にも、もしかするとご家庭にも様々なドラマがあり、合唱コンクールができあがってきたと思います。結果として順位は付きましたが、どのクラスも個性あふれた素敵な合唱だったと思います。来年は、どんなドラマが起きて生徒たちはどういう成長をしていくのか楽しみです。

### 専任の部屋

### 「自転車利用に関する注意喚起 ～地域と共に安全な学校生活を～」

地域の方から、「学校のジャージを着た生徒が、自転車に乗っている姿を見かける」とのご連絡をいただきました。時間帯としては、朝練の前後や、土日・祝日の部活動の解散時とみられています。

本校では、自転車での来校は禁止されています。これは、生徒の安全を守るとともに、地域の方々との共生を大切にするためのルールです。

この地域には高齢の方々が多く暮らしており、福祉施設も点在しています。自転車は「軽車両」として道路交通法の対象であり、危険運転は重大な事故につながる可能性があります。特に、スピードの出しすぎや歩行者とのすれ違いには十分な注意が必要です。

今回のご指摘を受けて、改めて以下の点を確認・徹底しましょう。

- ・自転車での登下校・来校は禁止です。
- ・自転車を利用する際は、交通ルールを守り、安全運転を心がけましょう。
- ・地域の方々への配慮を忘れず、マナーある行動を心がけましょう。

一人ひとりの行動が、学校全体の信頼につながります。自分自身と周囲の安全を守るためにも、今一度ルールを確認し、責任ある行動をお願いします。

### 今後の予定

11月18日(火) 学校保健委員会  
21日(金) 2年出前職業体験  
11月28日(金) 人権講演会  
12月 3日(水)～9日(火) 個人面談  
3日(水)～11日(木) 学校を開く週間  
(文化発表会展示部門 展示期間)

### カウンセラー来校日

11月  
21日(金) 25日(火) 28日(金)  
12月  
2日(火) 5日(金) 9日(火)  
12日(金) 16日(火) 19日(金)  
23日(火)

※ 相談室直通 TEL045(802)8905の留守番電話にお名前、連絡先を入れてください。

### 編集後記

今年は、例年よりも早く感染症が流行しているようです。あっという間に冬になりそうな気配も感じますが、芸術の秋、食欲の秋、スポーツの秋…体調管理に気をつけて、日々深まる秋を楽しみたいですね。

### 学校HPのQRコード



# 令和7年度 横浜市学力・学習状況調査の結果報告

5月13日に横浜市の1～3年生を対象に「横浜市学習・学習状況調査」が実施されました。

実施教科は「国語、社会、数学、理科、外国語」と「生活意識調査」です。

※個人の結果シートについては、10月30日までに生徒に配信済みです。学習支援システム「ST★DY Navi」の生徒児童用画面から閲覧できます。

※令和7年度より「紙」の個人シートの返却はありません。クローம்பック→学習支援システム「ST★DY Navi」から結果をご確認ください

## 1年生 調査の結果と各教科の分析

教科	横浜市 正答率	泉が丘中 正答率	今年度の調査結果と今後の取組
国語	63.1%	61.9%	合計正答率は、市平均より約1ポイント低い大きな差がない。特に、「複数の情報に基づいて、自分の考えをまとめる」「話し言葉と書き言葉の違いに気付く」設問では、市平均を約4～6ポイント上回っている。しかしながら、「書き手の考えをより適切に伝えるための論の進め方について考える」という思考・判断・表現の設問が市平均より約10ポイント下回っている。日頃の授業においても適切な言葉を使って自分の考えを表現することに課題があることが見取れるので、言葉の力の育成に力を入れていきたい。
社会	60.3%	57.1%	全市平均と比較すると約3ポイント下回っている。観点ごとにもみると、知識・理解で約3ポイント、思考・判断・表現で約4ポイント下回っている。知識・技能の向上を図るために、基礎・基本の定着に取り組む。重要用語を中心とした理解につながるような学習を進める。また、思考・判断・表現の向上を図るために、自らの考えを記述したり説明したりする活動を通して、自らの考えを深める取り組みを継続する。
数学	63.2%	58.0%	教科内合計正答率は市平均より5ポイント近く差をつけられているが、分布を見ると45～80%程度の正答率を学年の75%が占めており、突出して低い、あるいは高い正答率をもつ生徒は少ないため、バランスがとれている。観点別にみると、知識・技能については、式を用いた問題や統計・確率に関して正答率が伸び悩んだ。思考・判断・表現でも、同じ様子が見られる。基礎的・基本的な数学の力は今後も継続して高めていく必要があるが、応用的な問題は、それぞれのレベルにあったものを用意したり、補助をしたりしていきたい。
理科	57.5%	54.6%	合計正答率は、市平均より約3ポイント低い。「知識・技能」の観点においては、「実験の結果を適切に記録する」という設問が市平均より約9ポイント低く、特に実験の技能に課題が見られた。また、「思考・判断・表現」の観点においては、「検証計画を立てる」「予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現する」という設問が5ポイント以上低く、同様に実験を行う上での思考に課題が見られた。今後は実験や学びあい活動を通して、知識・技能の定着、結果や情報を活用し規則性を見いだす力を高める活動をしていきたい。
外国語	82.0%	78.2%	合計正答率は、市平均より約3.8ポイント低い。思考・判断・表現は6ポイント近い差が開いている。また四技能(話すこと以外)では、聞く力より、読む力の方が下回っている。読解力を高めていくためには、小学校英語で学んだ基本単語をはじめ、現在学習している語彙の読み書きをしっかりと身につけることはもちろんのこと、より多くの英文に授業でも家庭学習でも繰り返し触れていくことが大切だと言える。書く力については、4線に大、小文字を正しく書けるかどうかの間であったが、全市平均との差が5ポイントほどあった。言語活動によっても引き続き総合的に力を伸ばしていきたい。
生活意識			一日に1時間以上勉強している割合が約50%で、市の平均より低かった。読書時間は市の平均を大きく上回っているため、学習方法の工夫や学習時間の定着が必要だと捉える。また、スマホやゲームの時間が3時間以上の割合が市の平均を大きく上回っている点に注目した。SNSトラブルの多さに直結しており、より一層のネットモラルや端末に触れる時間の検討が必要である。自分のことが好きだと答えた生徒は市の平均とほぼ同程度で、約80%となった。自分のことと合わせて他人も大切にできる心を養いたい。

今回の調査結果から測定できることは、学力の一部であり、学校の教育活動の一側面にすぎません。本校では、この調査結果を真摯に受け止めるとともに、数値だけにとらわれることなく、生徒一人ひとりが成長できるように、引き続き教育活動に取り組んでいきたいと考えています。



## 2年生 調査の結果と各教科の分析

教科	横浜市 正答率	泉が丘中 正答率	今年度の調査結果と今後の取組
国語	67.7%	64.3%	市全体と比べると、全体的には3ポイント程下回っている。情報と情報との関係性や結びつきを考え、根拠を明らかにすることや、目的に応じて必要な情報に着目して要約することなどは、授業や定期試験などを通して取り組む機会が多い。そのため、市の正答率よりも上回っている。しかし、文章の全体の構成を捉えることや登場人物の心情の変化を描写を基に捉えることなどは、市の正答率を10ポイント程と大きく下回っている。説明文や物語を通して、構成の捉え方や心情の捉え方を身につけていきたい。また、心情の捉え方に関しては語彙が心情を理解するための手助けになることも多い。そのため、単語調べなどの語彙を増やしていくための活動を取り入れていく。
社会	55.7%	51.7%	全市平均と比較すると4ポイント下回っている。観点ごとにみても、知識・技能で約4ポイント、思考・判断・表現で約4ポイント低い。また、領域等発展問題でも全市平均より低い。この領域等発展問題を分析すると、位置や空間、時期と時間、事象と人々の相互関係において、得た知識をつながりを持った理解に至っていないためと考えられる。知識・技能の向上を図るために、基礎・基本の定着に取り組む。重要用語の理解と事象の背景理解につなげるような学習を進める。また、自らの考えを記述したり説明したりする活動を通して、自らの考えを深める取り組みを継続する。
数学	55.6%	52.4%	横浜市全体と比べると、統計分野・確率分野以外の部分で市平均を4%ほど下回る結果となっている。そのため、基本的な計算や方程式などを正確に解けるように練習をしていきたい。また、学習したことが定着するように問題集などにより繰り返し取り組むようにしていく。観点別にみると、知識・技能も思考・判断・表現も市平均を下回っていることがわかる。今後は知識・技能の強化を中心に、様々な問題に触れる際に、一つだけでなく様々な解き方・考え方を身につけていけるような取り組みを行っていく。
理科	51.3%	49.4%	合計正答率は、市平均より約2ポイントほど下回っている。「知識・技能」の観点においては、特に地球分野で課題が見られた。また、「思考・判断・表現」の観点においては、全体的に、実験結果から法則性を見いだすなどの、根拠のある考察をする力を問われる問題で市の平均より下回る傾向にあった。今後は、基本的な知識を習得をしていくことに加え、実験などを通して、得た知識を使って思考する機会を増やしていくことで、思考力の向上を図っていきたい。
外国語	68.3%	65.1%	全市の結果と比べて全体的に少し下回っている。昨年度と比較して「学力を伸ばした」割合は約73%であった。特に聞く力においては、思考・判断・表現を問う問題で、中には横浜市を若干上回っているものもあった。また、短文を読んで概要を適切に捉える問題の正答率が高かった。しかし、全体としては、聞き取ったり読み取ったりした内容の中から必要な情報を選び取り、活用する「思考・判断・表現」の部分で正答率が低くなっているため、その力が弱いと考えられる。また、書く力が弱く、聞かれていることに対してどう答えるのか、自分の意見をどう書くのか、が難しいと感じる。自分の考えを書いたり話したりして表現できる力を伸ばして行きたい。
識生活 調査意			1日の学習時間は1時間未満が50%を超えていて、市の平均から見ても家庭での学習時間の不足が露呈している。一方で1日のゲーム・スマホ等の使用時間は3時間以上が40%近く、2時間以上では60%を超えている上、時間の長さで全市を上回っている。SNSトラブルの多さが、この数値にも現れていると言える。学校は安心できる場所については、おおむねそう思うが85%と横浜市全体と比べ同程度であった。自己肯定感の有無については、自分のことが好きと答えた生徒が70%強、自分には良いところがあると答えた生徒が80%と、市の平均を上回った。ルールや秩序を大切にするという考えをもった生徒も全市より高かった。

## 3年生 調査の結果と各教科の分析

教科	横浜市 正答率	泉が丘中 正答率	今年度の調査結果と今後の取組
国語	60.9%	58.9%	全市平均と比較すると、説明的な文章・文学的な文章・情報活用のすべての領域について、ほぼ同じ結果となった。観点別にみると、知識技能が3ポイント下回っているが、漢字以外は同等か上回っている。思考判断表現全体については、ほぼ同等である。これらのことから、漢字力を更に伸ばすことと、引き続き文章を丁寧に意味を考えて読む中で、スピード感を持って必要な情報に着目して内容を整理・解釈する力を伸ばせるように、工夫して授業を行っていく。
社会	54.1%	49.2%	全市平均と比較すると5ポイント下回っている。観点ごとにみても、知識・技能で約5ポイント、思考・判断・表現で約5ポイント下回っている。知識・技能の向上を図るために、基礎・基本の定着に取り組む。重要用語の理解につなげるような学習を進める。自らの考えを記述したり説明したりする課題を設定し、その活動を通して、自らの考えを深める取り組みをするなど、授業での工夫を図る。
数学	58.2%	55.9%	正答率は市平均より2.3%低い結果となった。その中で、平面図形、統計、確率の分野は市平均とほぼ変わらないが、式、関数の分野は下回った。特に、一次方程式や連立方程式を具体的な場面で活用する問題ができていないため、復習をしていきたい。一方で、学力を伸ばした生徒の割合は市平均より12.4%上回り80.0%となっており、学習に前向きに取り組む生徒が増えてきていると考えられる。今後は入試に向けて3年間の学習内容を振り返りつつ、さまざまな問題に活用していけるように、学習を進めていきたい。
理科	47.9%	43.6%	正答率は市の平均より低く、「知識・技能」「思考・判断・表現」のどちらの観点も市の平均を下回っていた。また、横浜市全体的にも他教科と比べ理科の正答率が低いことが見られる。そのような背景も踏まえると、用語を覚える基礎的な学習の段階でとどまってしまう、深い理解や知識の定着、さらには思考や表現活動まで進めずに学習活動がとどまってしまう生徒が少なくないのではないかと推察できる。今後も、基礎知識を結び付けて身につけること、学び合いや表現活動を通して、学習を深める活動に取り組んでいく。
外国語	67.8%	63.2%	正答率はどの問いに関しても横浜市の平均をわずかに下回っている。知識・技能に関してはわずかに下回っていないが、読むこと・書くことに関しての正答率が特に横浜市の平均と差がある。基礎的な知識があるが問題を読んで情報や概要を的確につかみ、答えを導き出すことが苦手だと推測できる。一人ひとりの正答率をみると、100%や高い確率で正答している生徒もいる反面、どの問いに関しても正答率が低い生徒がいるため、学年の中で問題を解く力の差が出ていると分かる。今後は英語の感覚だけでなく、問題を正確に解く力を育むために問題演習に取り組んでいきたい。
識生活 調査意			「1日の学習時間が2時間以上(塾や家庭教師を含む)」の生徒は35.2%で、市平均より8.3%少ない。逆に、「1日のゲームの時間が2時間以上」の生徒は62.4%で、市平均より9.8%多い。そのため、学習内容をふり返ったり、反復したりする必要があると考えられる。他は市平均と同程度であるが、どちらかといえばそう思うも含めると、「将来の夢や目標をもっている」は62.4%、「学校は安心できる場所である」は84.8%、「自分のことが好きですか」は75.2%となっている。どの生徒にとっても学校が安心する場所で、一人ひとりが自分のことを大切に将来に向けて一歩ずつ進んでいけるように、これからも努力していきたい。

よこはまし がくりよく がくしゅうじょうきょうちよう さ  
**横浜市学力・学習状況調査**  
 こじんけっか みかた かつよう  
**個人結果シートの見方と活用のしかた**

- 教科ごとに、学習に関するアドバイスや、必要な力が身に付いているかが、1枚にまとめられています。
- 学習ダッシュボード「横浜St☆dy Navi」から見るができます。
- ご家庭でご覧になる際は、お子様と一緒にご確認ください。

【L-Gate から「横浜St☆dy Navi」への行き方】

①『L-Gate』に入る。

※ブラウザから入る場合の URL:

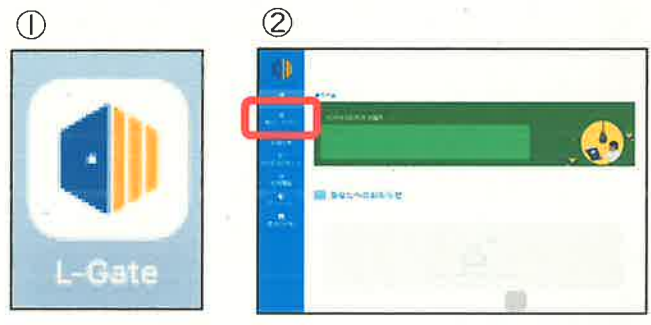
<https://yokohama-edu.l-gate.net/>

②L-Gate ホーム画面左の『教材・アプリ』を選択

③『横浜St☆dy Navi』を選択

④アカウントを選択

⑤パスワードを入力



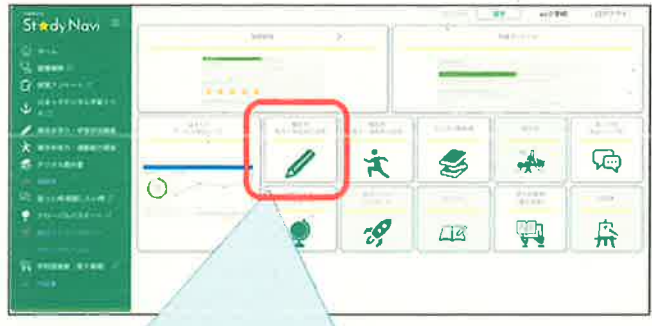
※証明書の選択を求められる場合があります。その場合は、  
 小学校:「2024-ipad.study-navi.edu.city.yokohama.jp」  
 中学校:「2024-chrome.study-navi.edu.city.yokohama.jp」  
 を選択してください。



【「横浜St☆dy Navi」での個人結果シートの見方】

①「横浜市学力・学習状況調査」を選択

②「令和7年度」を選択



個人結果シートPDFダウンロード

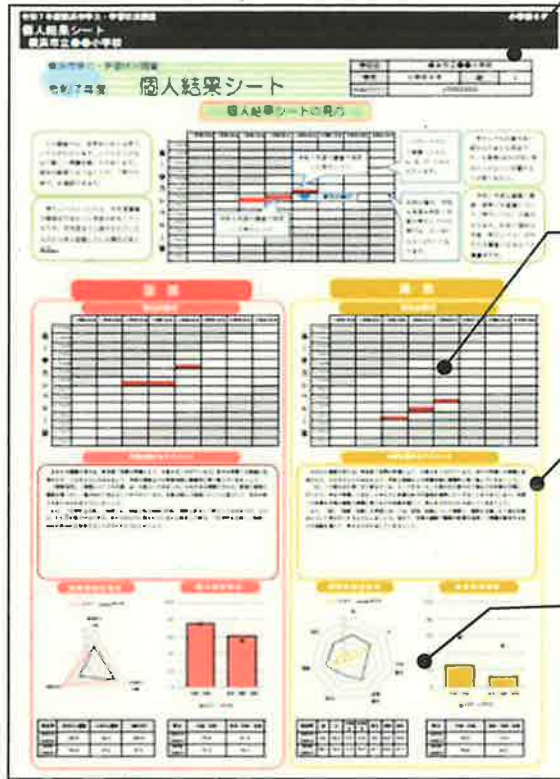
令和6年度

令和7年度

※令和6年度、7年度の個人結果シートが閲覧できます。

○アドバイスを参考に、自分の苦手な部分を今後の学習の中で意識して、その力が身に付くようにしていきましょう。

【小学校第6学年の例】



学校名、学年、組、Google アカウント

国語と算数(中学校では数学)は、令和4年度から令和7年度の「学力レベル」、外国語は、令和5年度から令和7年度の「学力レベル」が赤の太線で表示されます。

※令和5年度の調査を受けていないか、令和5年度から Google アカウント(個人番号)が変わっている場合、令和5年度からの学力の伸びは記載されていません。

※小学校2年生は令和7年度から調査を実施しているため、令和7年度の結果しか表示されません。

※学力レベルについては、今年度調査の解答状況をもとに再度分析をしているため、昨年度までに表示されていたものから多少変動している場合があります。

「学力レベル」の伸びの状況や学習の理解や習熟の状況に応じたコメント、今後の学習に関するアドバイスなどについて文章で記載されています。

調査を行った教科の領域等別正答率と観点別正答率を、表とグラフで表しています。

参考として、横浜市の平均正答率も示していますが、横浜市の平均正答率と比べることよりも、自分の力を知って、これからの学習の中で意識して、その力をのばしていくことが大切です。

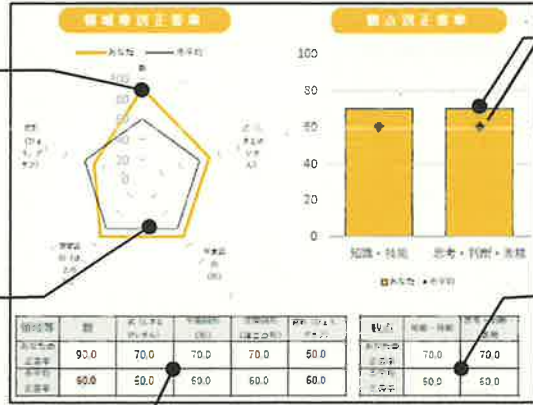
※正答率…問題全体に対して、どのくらい正答できたかを示す割合のこと。全ての問題に正答した場合を 100 % とする。

○「領域等別正答率」と「観点別正答率」

領域等ごとの正答率を図形で表しています。色付きの線が、あなたの結果です。点が外側にあるほど、力がよく身に付いています。  
※小学2年生は、右側の観点別正答率と同様、棒グラフで表されています。

参考として、黒色の線で、横浜市の平均正答率を重ねて示しています。

上の図形を数値で示した表です。上の段があなたの結果、下の段が横浜市の平均です。



下の観点別の表を、グラフに表したものです。長方形の太い棒グラフがあなた、◆が横浜市の平均です。

二つの観点「知識・技能」と「思考・判断・表現」について、あなたの正答率と横浜市の平均正答率を % で表しています。

※正答率…問題全体に対して、どのくらい正答できたかを示す割合のこと。全ての問題に正答した場合を 100 % とする。